東京都立大学附属高等学校同窓会
2025年度下期「理事・監事・評議員会議」議案書

議案1　2025（令和7）年度事業報告（2025年4月1日～2025年12月31日）

① 会報の発行（2025年6月30日発行）

A4版　16ページ　オールカラー　　印刷部数8，700部（300部減）

発送部数　　国内会員　7，528（-139）部　特別会員（恩師）　143（―2）部

海外在住会員　69（－5）部

桜修館教職員・PTA・生徒に配布　　合計350部

② 第77回記念祭（9月6日、7日）

B棟201講義室に同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展。旧制府立高以来の資料、写真の展示、95年間の3校の歴史年表の掲出を行った。また、校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌の DVD 終日放映。AB 棟間コンコースで合唱イベントを行った。

③ 第13 回「八雲が丘賞」（表彰式9月8日）

受賞は「野球部」。前期野球部は三年生 3 名、二年生 7 名、一年生 6 名の計 16 名という小さなチームながら、昨年の夏の新人大会では第二ブロック優勝という成果を収めた。 後期野球部は、今年度は六年生6名、五年生5名、四年生が 12 名で活動（春大会は9名に足らずに辞退）。練習内容を工夫し活動を継続してきた。表彰式は記念祭の閉祭式の会場で全校生徒の前で行った。

④ 第9回「八雲が丘ホームカミングデー」（10月28日）

第25期、50期、桜修館4期を対象として桜修館「多目的ホール」を会場に開催された。約150名が出席、内訳は 25期：約45名、50期：51名、桜4期：31名、恩師：4名（吉田夏生先生（社会科担当）、藤井かね子先生（体育科）、桜修館 4 期担任の大谷誠先生（社会科）、時松秀行先生（数学科））、同窓会役員他、吉識副校長にご出席いただき、盛大に開催できた。

歓迎式典終了後、3班に分かれて校内を見学。今回も式典後の懇親会はなし。

⑤ 八雲が丘学友会

周年準備委員会と参加メンバーが重なることから開催なし。

⑥ 周年準備委員会（9 月 13 日）

(1) 記念式典

日時：令和8年3月19日（木）　　式場：めぐろパーシモン大ホール

第一部：式典　午前10時30分（受付　午前9時45分より）　～

第二部：サイエンスフォーラム、グローバルシンポジューム、吹奏楽部演奏

午前11時50分～午後0時50分

同窓会用に2階席（バルコニー席）に 10 名程度の席を確保していただいた。

(2) 記念誌

40 ページのものを 1,000 部作成し、生徒全員に配布。

同窓会で必要部数を取りまとめて、2/18までに報告要。同窓会から発送する予定。

単価:400 円（郵送料 270 円を加え 700円を予定)。

⑦ 会議など

5月11日　会計監査

7月5日　2025年上期「理事・監事・評議員会議」

11月29日 桃金杯(男子バスケ OB 戦)

12月27日 木下印刷と来年度会報制作に関する打ち合わせ

議案2 会計中間報告

（別紙 1 参照）

議案3 今後の活動計画 （2026年1月以降）

① 同窓会報の発行

2026年7月12日発行予定。A4版12ページまたは16ページ

印刷予定 8，700部　会員・特別会員へ約7，800部 桜修館関係350部

原稿締切り4月30日、5月編集作業、6月組版・校正・印刷・製本・発送

編集長の手塚理事が5・6月は繁忙のため、発行日を二週間程度遅らせる予定。

② 名簿の管理(2026年1月25日現在)

会員総数 14，350名　住所判明者 7，704(－94)名

(海外在住69名、会報受取拒否102(＋11)名、特別会員との重複2名含む)

死亡 988(＋34)名、　住所不明5，692(＋60)名

特別会員(恩師) 296名 住所判明者 140(－3)名、死亡77(＋2)名、

住所不明76(＋1)名

③ 第78回記念祭への参加、出展計画

例年通り同窓会ルーム「八雲が丘の集い」出展。府立高以来の資料、写真の展示、3校の歴史年表掲出。校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌の DVD 終日放映に加えて、同合唱イベントを実施。都大附高時代の資料の充実を図る。

④ 第14回「八雲が丘賞」

3月末に桜修館に候補団体または個人の推薦を依頼。7月11日(土)または12日(日)開催予定の理事・監事・評議員会議、或いは持ち回り理事会で受賞者を決定する。

⑤ 第10回「八雲が丘ホームカミングデー」の開催

第26期、51期、桜修館5期が対象。10月と11月のパーシモンホール小ホールの抽選には参加するが、当選確率は低く、その場合は桜修館「多目的ホール」で式典開催、校外での懇親会開催の実現を図る。

⑥ 今後の会議などの予定

以下の予定の他に、「八雲が丘学友会」を年3～4回開催予定。

3月中旬　拡大会報編集委員会

5月上旬　会計監査

7月11日または12日　2026年度上期「理事・監事・評議員会議」

9月上旬　第78回記念祭、 第14回「八雲が丘賞」表彰式

10月または11月　第 10 回「八雲が丘ホームカミングデー」

議案4　その他

① 年会費見直しについて

2024 年度は約 37 万円の赤字、収入は約 254 万円（会員約 1200 名の会費収入）、支出は会報の作成・発送費用(210 万円)が 86.0%を占める。

(1) 会費に関する会員の意識調査（石川副理事長が実施）

卒業生 270 人(物故者除く)中　配布 65 人(同期のうち約 24%)、回答者 13 人（配布したうち 20%）。詳細は別紙 2（会議のみ配布）を参照のこと。

(2) 会報を会員全員から希望者、あるいは、会費納入者のみに発送する。

発送部数を 50%、30%にシミュレーション[1]すると、56.6%、31.2%の削減ができる。

デメリットとして、会費納入のための振込用紙を送付する手段がなくなるため、会費納入者のシュリンクに繋がる可能性がある。

(3) 他校の会費金額の調査[2]

10校についてホームページ上で調査を実施した。金額が確認できるのは6校。2000 円が 4 校、1000 円と 3000 円が 1 校ずつ。九段は 3000 円であるが、卒業後 5 年間を 1000 円とする減額期間を設けている。

(4) 終身会員からの徴収

終身会費は 2011 年 12 月の会報で通知。終身会費 30,000 円は年会費 15 年分に相当するので、15 年が経過しようとしているので、終身会費納入者にも案内を出してもいい時期に来ているのではないか。

(5) 会費見直しについてご意見を伺いたい。

(a) 見直しをしない。

(b) 見直しをする。

会費の見直しは何回もできないと思われるので、今後の物価上昇も勘案するのか、会員への負担を考えて最低限にするのか。2500 円　or 3000 円

② 八雲が丘文庫の再建

図書館で公開の対象になっているものが、全体の 2/3。有効に活用されているとは言い難い。メモリアルルームにある残り 1/3 を含めて有効活用される方法を検討が必要。

③ 旧制府立高等学校創立100周年（2029年）記念事業

記念式典の挙行、記念誌（百年史）[3]の発行などが考えられる。

④ メモリアルルームの都大附高コーナーの整備、旧父母会の残資料の処理

⑤ 同窓会合唱サークル

2023年度の会報で同窓会合唱サークルの発足を呼び掛け、5名の参加希望者を得た。指導を予定していた佐藤文行氏（17期生・二期会会員）が昨年 2 月 26 日に亡くられたため、現実的な活動の目途が立たないので、解散を会報で報告する予定。

以上

---

[1] シミュレーションの詳細は別紙 3 を参照のこと。

[2] 調査結果は別紙 4 を参照のこと。

[3] 別紙 5　吉安理事作成「10 周年記念事業に向けての校史編纂について（一次報告)」

【表Ⅰ】　2025年度貸借対照表(財産目録)

2026年1月30日現在

科目・摘要	金額（単位：円）
1、資産の部	
現金及び預金	
現金(PayPay)	154,507
みずほ銀行普通預金	972,940
みずほ銀行定期預金	5,009,359
ゆうちょ銀行当座預金	3,086,042
PayPay銀行普通預金	1,798,905
現金及び預金　計	11,021,753
資　産　計	11,021,753
2、負債の部	
未払金	20,242
負　債　計	20,242
3、正味財産の部	
前期繰越正味財産	11,099,618
当期正味財産増減額	-98,107
正味財産計	11,001,511
負債・正味財産計	11,021,753

【表Ⅱ】　2025年度正味財産増減計算書

2025年4月1日～2026年1月30日

科目・摘要	金額（単位：円）
Ⅰ、経常収益	
1、受取会費	2,520,000
2、寄附金	9,500
2、DVD等販売収入	1,500
2、利息収益	2,892
経常収益計	2,533,892
Ⅱ、経常費用	
1、会報費	
会報原稿作成費	202,400
会報印刷製本料	893,447
会報通信運搬費	1,035,052
会報費計	2,130,899
2、ホームカミングデー費	
懇親会費収入	-
懇親会費支出	-
案内送付先作成送付費用	-
会場等賃借料	-
HCD雑費	3,596
ホームカミングデー費計	3,596
3、記念祭費	
通信運搬費	-
表彰金	100,000
記念祭雑費	2,922
記念祭費計	102,922
4、経常管理費	
旅費交通費	-
通信運搬費	13,707
支払手数料	268,345
会議費交際費	76,650
消耗品費	22,975
雑費	12,905
経常管理費計	394,582
経常費用計	2,631,999
当期正味財産増減額（経常損益）	-98,107

別紙3:会報発行部数削減シミュレーション結果

項目	（単価）	（数量）	（金額）	（備考）	紙を50%（数量）	紙を50%（金額）	紙を20%（数量）	紙を20%（金額）
デザイン費			**202,400**			**202,400**		**202,400**
デザイン	8,000	16	128,000	単位：ページ				
DTP			16,000					
ページ修正・画像全点補正			40,000					
小計			184,000					
消費税			18,400					
印刷費			**893,448**			**482,869**		**251,070**
会員捕逸データ修正	4,500	22	99,000	単位：時間	11	49,500	5	22,500
会員請求データ作成	35	7,671	268,485	単位：人	3,836	134,260	1,535	53,725
印刷	47	8,700	408,900	単位：枚数	4,836	227,292	2,740	128,780
梱包	360	44	15,840		22	7,920	9	3,240
大阪発送運賃			15,000			15,000		15,000
都内発送			5,000			5,000		5,000
小計			812,225			438,972		228,245
消費税			81,223			43,897		22,825
発送費用			**999,681**			**499,906**		**200,036**
封筒	10	7,671	76,710	単位：枚数	3,836	38,360	1,535	15,350
振込用紙（制作費）	11	7,303	80,333	単位：枚数	3,652	40,172	1,461	16,071
宛名用紙（製作費）	4	7,671	30,684	単位：枚数	3,836	15,344	1,535	6,140
宛名用紙（出力費）	12	7,671	92,052	単位：枚数	3,836	46,032	1,535	18,420
発送費（ゆうメール）	82	7,671	629,022	単位：枚数	3,836	314,552	1,535	125,870
小計			908,801			454,460		181,851
消費税			90,880			45,446		18,185
合計			**2,095,529**			**1,185,175**		**653,506**
削減率						56.6%		31.2%

別紙4：他校の会費調査結果

NO	学校名	名称	法人	会員	年会費	入会金	予納会費	支払い方法	備考
1	新宿	朝暘会	一般財団法人	任意	2,000円/年	15,000円		クレジット 振込	入会金は卒業時に徴収。入会後、5年間は会費は免除。 長期会費10,000円（6年分）もある。
2	駒場	駒場松桜会	一般財団法人	全員	1,000円/年	ー		振込	
3	戸山	城北会	一般財団法人	任意	2,000円/年	ー	5,000円/年	振込 自動振込 クレジット	予納会費は在校性が、正会員となった年度から10年間分の年会費相当として充当することとし、各年度ごとに 1,500 円を一般会計の収入の部に順次繰り入れる。
4	青山	外苑会	一般財団法人	任意	2,000円以上/年	ー		振込	納入額の1割を奨学金基金に充当。 年会費が2,000円を超える場合、奨学金基金への充当額を指定できる。
5	目黒			全員	不明	ー		不明	会則には会費に関する記述があるが、詳細は不明。
6	広尾	泰山会		全員	不明	不明		不明	会則には「母校卒業時または入会時に終身会費として定められた額を本会に納入する。」とある。
7	日比谷	如蘭会		不明	6,000円/３年	ー		振込 自動振込 クレジット PalPay	3年置きに会報に振込用紙を挿入する。
8	九段	菊友会	公益社団法人	不明	3,000円/年 1,000円/年 （減額期間）	ー		振込	**菊友会は公益社団法人**九段の正会員。 卒業後5年間は減額期間。納入率は14～15%(2023年度実績)
9	三田	ワカバ	一般財団法人	任意	不明	2,000円		不明	卒業時に入会希望者から入会金を徴収。 会計報告から推測すると、150名の卒業生に対して99名が入会。 会費を納入した一覧を会報に掲載している（WEB上ではマスキングしている）。
10	小石川	紫友会	一般財団法人	全員	2,000円/年	ー		振込 コンビニ 自動振替	

2026.1.30

100 周年記念事業に向けての校史編纂について　(一次報告)

19 期(1966 年入学、69 年 3 月卒業) 吉安慎二

記念誌を読み比べて気づいた点を報告します。

１．　以下各資料 1),2),3)と記すのは、都高六十年 1)　都高七十年 2)　閉校記念誌 3)です。都高五十年は手元にないため読んでいません。

２．　資料 2)の P.10～11 第２表 都立大学付属高校時代では、ほぼ 1959 年(実際は 1963 年)16 期のクラス増加以降の事項について、ほぼ年次が５年ほど早く表示されています。

３．　また資料 2)では、68 年 3 月の１８回卒業式は討論形式が計画されたとありますが、直前まで計画されていた討論形式が急遽中止となったのは 69 年 3 月です。この記述は資料 1)P.42 を読み違えているので訂正が必要です。卒業式や卒業年を実施年月で表示するか前年 4 月からの該当年度で表示するかというよくある混乱の類とも言えます。とは言え、卒業式が 69 年 3 月に中止となり以降 8 年間開催されず、「紛争時代」の始まりだったので正確に表示が必要と考えます。

４．　一方、資料 3)沿革史 P.20 では以上述べた年次表記は修正されています。また、P.65 以降の教育課程の変遷にもより細かく記載されており、P.68- 1969 年の欄には当時の先生方のご苦労が窺われる表現もあります。資料 3)を基本にして、同窓会の各年代で検証して加筆修正するのが望ましいと思われます。

５．クラス編成、生徒定員、入試選抜制度(方式)などをまとめた表を作成すると、都高のあり方をより具体的に掴めると思われます。一方、資料 2)にある大学合格状況の一覧は、進路指導の一端を示すものの 100 年のスパンでは表現しきれないので、記念誌の発行主体が誰なのかも含めて検討課題と思われます。

以　上